P-D-42

宮城県におけるがん登録の実務者育成（第4報）

宮城県がん登録室における 診療情報管理士の到達目標の設定について

齋藤美登里[1,2]　只野尚子[3]　佐藤真弓[4]　金村政輝[1,2,4,5]

1 宮城県立がんセンター　宮城県がん登録室
2 元・公益財団法人宮城県対がん協会
3 公益財団法人宮城県対がん協会
4 宮城県立がんセンター　院内がん登録室
5 宮城県立がんセンター　研究所がん疫学・予防研究部

【目的】

- 宮城県の地域がん登録は、これまで収集を主に診療情報管理士が担ってきており、出張採録業務を経験することで、がん登録に関する知識を実践的に習得してきた。
- しかし、全国がん登録が開始され、収集が届出方式へ転換したことで、実践の機会が無くなり、知識の習得がこれまでより困難になっている。また、全国がん登録の届出支援やデータの利活用推進など県内の医療機関を指導する立場にもなり、業務の幅も拡大している。
- そこで、新任の診療情報管理士が意欲的に業務に取り組み、効率的にスキルアップが図れるよう到達目標を作成した。

【結果】

- 業務を5つに分類し、項目毎に入職1年目～5年目まで詳細に目標を設定。
- 平成31年4月、県のがん登録事業が宮城県立がんセンターへ移管されたことから、がん登録知識習得の実践は、院内がん登録を経験し学ぶ方針とした。
- 設定目標の詳細は、下表のとおり。

目指すべき姿…

全国の都道府県がん登録事業をリードする意欲と実力を兼ね備えた人材

1年目	指導のもとで管理・開発・運営をすることができる。	指導のもとで届出問合せに対応できる。	標準集計表を活用し、その内容を説明できる。	指示を受けた業務、資料を整備し、必要な資料を用意することができる。	院内の事務手続きを理解し、実践することができる。
	指導のもとで標準集計表を作ることができる（1回目）	指導のもとで届出がん等に問い合わせることができる。	【自己機能】指導のもとで自院病院へのデータ提出を行うことができる。		指示・検査・資料・調査を補助することができる。
	【社会貢献 全国展開】指導のもとで作業を行うことができる。	自院分の資料を確認することができる。	年次報告の原稿を確認することができる。	がん登録研究会等に参加し、知識を深める。	指示等に従うことができる。
	【院内がん登録】指導のもとで登録することができる（ICD がんマニュアル）。	自院分の調査票確認を指示することができる。 指導のもとマンツーマンで調査票の集計指導をすることができる。	指導のもとで自院分の記載資料を作成することができる。 指導のもとExcel等によるデータ抽出・集計を指導する。	がん登録実務研修会（初級）受講	主治医へ協力・説明が必要な場合、指示、資料等の補助について理解し、協力できる。
2年目	一人で管理・開発・運営をすることができる。	一人で電話問合せに対応できる。	【自己機能】データ提供の問い合わせに対応できる。	指示・依頼を受けることができる。	指導のもとで主要作成の資料の補助を行うことができる。
	指導のもとで標準集計表を作ることができる（1回目）	一人で届出がん等に問い合わせをすることができる。	【自己機能】標準集計表のデータを作成することができる。		指導のもとで主要作成の資料を作成することができる。
	【社会貢献 全国展開】作業の中心的役割を担うことができる。	指導のもとで届出指示等の資料を作成することができる。	指導のもとで年次報告書を作成することができる。		
	【院内がん登録】指導のもとで登録することができる（ICD がんマニュアル）。	指導のもとで届出指示等の調査票を確認することができる。	指導のもとで年一次主治医へのお願いを、実施することができる。 指導のもとExcel等によるデータ抽出・集計を行うことができる。		
3年目	一人で企画・事業を行うことができる（1回目）	一人で届出指示等の資料を作成することができる。	一人で自院分の資料を作成することができる。	【院内がん登録】院内関係職員に対してがん登録の基本的な内容を説明することができる。	主要作成の不足分を行うことができる。
	【社会貢献 全国展開】リーダーとして作業を担うことができる。	自院分の調査票を指示することができる。	指導のもとで事務局業務として年次報告書を作成することができる。	【院内がん登録】院内関係職員に対して研修（中級）を実施することができる。	主要作成の資料を作成することができる。
	【院内がん登録】登録の責任なく登録することができる（ICD がんマニュアル）。それぞれ（ICD-10 第3版）。	自院分の調査票確認に参画することができる。	自院分のデータをExcel等によるデータ抽出・集計を行うことができる。	【院内がん登録】研修（中級）受講	必要なときに相談員と連携して調査票を確認することができる。
4年目	業務管理・開発・運営・事務のリーダーを担うことができる。	リーダーとして届出がん等・調査を指導することができる。	リーダーとして自院分の集計業務を指導することができる。	年次報告の原稿作成の調査を指導することができる。	主治医の代理として協力・説明することができる。
	【院内がん登録】すべてのがん（悪性腫瘍）について、1人で登録作業を行う上で、登録することができる（ICD-10 第3版）。				
5年目	業務管理・開発・運営・事務のリーダーとして業務を担うことができる。	リーダーとして届出がん等・調査を責任を持って指示することができる。	リーダーとして自院分の集計業務を責任を持って指示することができる。 事務局員として資料を作成し、事務局員を作ることができる。	【院内がん登録】研修受講者業務に対する指導を行うことができる。	主治医の代理として協力・説明することができる。
	【院内がん登録】すべてのがんについて1人で登録作業を行う上で、登録することができる（ICD-10 第3版）。				

【考察】

- 本年4月に新任の診療情報管理士が入職。設定した目標を活かして、対象者と指導する側のお互いが評価とフィードバックを繰り返しながら、スキルアップに繋げていければと考えている。
- 質の高いがん登録データを維持できるよう、継続的に設定目標の見直しや改善点の修正を重ね、人材を育成していきたい。

【方法】

- がん登録室長（医師・業務）、後進育成リーダーの診療情報管理士、正職員（事務）の3名で検討に着手。
- 目標を作成するにあたっては、都道府県がん診療連携拠点病院である宮城県立がんセンター院内がん登録室において、既に作成、運用されている到達目標を参考にした。

① 届出受理・照会・照合・集約

【目標】
ルールを理解し、正確ながん登録業務を行うことができる。
- 全国がん登録の届出受理～集約業務
- 院内がん登録業務を経験し、知識習得
- 住基ネットとの照合、住民票照会　など

② 届 出 支 援

【目標】
届出施設の特性・担当者の経験に応じて適切な支援を行うことができる。
- 届出施設からの電話問合せの対応
- 説明会等の資料作成・講師・演習を担当　など

③ データの利活用

【目標】
がん登録情報を加工し、研究利用に提供するとともに、自ら分析し、発表することができる。
- 標準集計表を利用したデータ活用
- データ抽出・集計（Excel、Access）
- 研究利用等への窓口組織としての対応　など

④ 教 育

【目標】
後進、院内の他職種、外部向けに対する指導を行うことができる。
- がん登録実務者認定試験（初級・中級）の合格
- 後進育成
- 院内の他職種へがん登録の基本的内容の指導　など

⑤ 事務・連携

【目標】
事務、室長の代理、他部署と連携した活動ができる。
- 院内の文書作成や事務手続き処理
- 各種照会への回答などの作成
- 必要時に他部署と連携し問題解決　など